

大阪市立大学文学部をここまで紹介してきましたが、「文学部に行って将来は『何』になるんだろう？」という疑問を抱かれたことのある方もいらっしゃるかもしれません。ここでは、大阪市立大学文学部を2019年度に卒業された方の声をお聞きました！
 加えて、大阪市立大学では学生の進路のサポートも手厚く行っています。詳しくは下記HPをご参照ください。
 (https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/education/career_support)
 また、右記QRコードでは2019年度卒業生の主な就職先に関するデータを掲載しています。



公務員

言語応用コース卒業
 ※言語応用コースは2018年度入学生をもって募集を停止しました。

たけいし はるな
武石春奈 さん

私が公務員という進路を選んだ理由は、様々な人々の境遇や考え方に寄り添い、人と関わり合いながら働きたいと思ったからです。進路についてこのように考えたのは、文学部で幅広い分野について学び、様々な考えを持つ人と意見を交わしたことに影響を受けています。多くの人の考えを知り総合的に考える力は、就職した現在でも、相手の話を受け止め、自分は何が出来るかを考える上で役立っています。

就職活動をする中で、大学での学びをどのように仕事に活かすのかと聞かれることがよくありました。しかし、文学部は専攻での学びを仕事に直結させるイメージを持ちにくい学部だと思っています。そこで、私は「知識を直結させるのではなく、文学部で培った視野の広さを持って、様々な人と関わり合う公務に携わりたい」とアピールし自分の思いを伝えました。

民間就職

不動産業
 教育学コース卒業

やました こうき
山下高輝 さん



就職活動を始めるまでは教職科目も受講していたのですが、真剣に自分の将来の働き方やなりたい自分の姿などを考えたときに、教職ではなく民間就職の方が自分に適しているのではないかと思ったことが民間企業に進もうと思ったきっかけです。

また、大学での学びの中で役に立っていることは、卒論執筆までの先生方のご指導だと思っています。先生との相談に向けて資料を作成することや、自分の考えを提示しながら相談をするといった過程は、後々どんな仕事に就く場合でも役立つことだと思っています。

就職活動では、自己分析に最も力を入れて取り組みました。自己分析を早い時期から丁寧に行うことで、志望する会社へ提出する書類に自分の価値観や考えなどを正確に記載することができ、面接でもそれを踏まえて話をすることができたと思います。



卒業生 インタビュ

教員

高校 地理歴史科

教育学コース卒業

まつい としあき
松井利晃 さん

私は高校2年生の時に自分自身の進路についてすごく悩んでいました。その時に世界史の先生がすごく親身に話を聞いてくれたという経験から、自分も多様な進路に悩む高校生の進路選択を助けたいと思い、教員を目指すようになりました。また、相談に乗ってくださった世界史の先生の授業が面白く、歴史について更に造詣を深めたいと考え、大阪市立大学文学部に進学しました。文学部の授業では歴史や地理の最先端の研究を学ぶことができ、より教科の専門的理解を深めることができました。加えて人権教育に力を入れている大阪市立大学で学ぶことができたため、人権に対する意識が変わりました。このように、教員になる際に必要な教科の専門的知識や人権感覚を「大学の授業」を通して学ぶことができました。

大学院

大阪市立大学大学院
 文学研究科 前期博士課程
 地理学コース卒業

くらた ひでのり
倉田英法 さん



もともと地理が好きだったので、大学では地理学を学び、学部卒業後は地理の教員になろうと考えていました。最初に大学院を意識したきっかけは、大学院で修士の学位を修めることで専修免許状を取得できると知ったことです。また、地理学コースに配属された2回生以降、専門的な講義や実習を受けるなかで、地理学という学問に惹かれていきました。最終的に「地理学のより深い知識を得るため大学院に進学し、専門的に地理教育を行える教員になりたい」と思い、大学院への進学を決意しました。

私は4回生時から「東日本大震災の広域避難者問題」を研究テーマにしています。調査で、広域避難者の生活を再建を支える方へのインタビューを行った経験から、社会に現在生じている問題を多面的に考える思考が身につきました。また、大学院入試に向けて人文地理学の知識を改めて勉強したことは、大学院生としての研究の基礎になっています。